

# チョウ・マップ（徳川園）

## ポタン園

秋： ヤマトシジミ（植込やポタンの根元、敷石のすき間に★カタバミ自生）  
 通年： ツマグロヒョウモン（周辺の生垣）



## 池の北岸

♪ コイへのエサやりスポット  
 日当たり良好、アゲハ類がよく通る。  
 手水鉢付近の水たまりで吸水も…。

## 芝生広場、ウメ・モモの疎林

♪ 林の中にポッカリ明るい空間  
 ◆ センダン（5-6月）、◆ カクレミノ（8月）：  
 アオスジアゲハ。  
 春： テングチョウを見かけることも（♣エノキ近く）  
 秋： ヤマトシジミが主役（★カタバミ）。



カクレミノ  
 地味な花だが、ハチやアブにも人気。

## 池の西岸 ♪ 個体数が最も多い

日当たり良好、樹種豊富。日向・日陰のバランスよい。

春～秋口： ナミアゲハ、アオスジアゲハが主体。  
 秋： ヤマトシジミが急増して主役に。  
 ♥ ハギ（9月）： ウラナミシジミが群舞。  
 ツ ツワブキ（10-12月）： キタキチョウ。

## 花菖蒲園

日当たり良好な湿生環境、樹林に隣接、水路脇にカタバミなど自生…。  
 多様な可能性あり。

春～初夏： モンシロチョウ（タタンポポ、★カタバミ）  
 春～秋口： ナミアゲハ、アオスジアゲハ（湿った地面で吸水も…）  
 秋： ナミアゲハ（★ヒガンバナで吸血）  
 ヤマトシジミ（水路脇の★カタバミ）



アオスジアゲハの吸水



## 溪流の中溜り周辺

♪ 種数が最も多い（累計13種）  
 里外れの野辺・山辺のような草地・疎林。  
 多様な潜在的な可能性あり。

春～秋口： アオスジアゲハが多い。  
 春には、ベニシジミを見かけることも…。  
 秋： ウラギンシジミ（楢近く）、キタキチョウ。

## 滝口付近

上空を見上げると、樹冠の切れ目をアゲハ類が飛び姿を見かける。



モンキアゲハ

\* チョウと食草・蜜源の対照は、P.15～16 参照。

### 食草（幼虫のエサ）

- クス、カシ、シイ
- ♣ エノキ
- ▲ ヤナギ
- ♥ フジ
- ★ ホトトギス
- ▲ ススキ

### 蜜源（成虫のエサ）

- ♥ ハギ
- ★ カタバミ
- ◆ シヤリンバイ
- ◆ センダン
- ◆ カクレミノ
- ツツジ類
- ★ オニユリ
- ★ ヒガンバナ
- ☪ フジバカマ
- ツワブキ
- タンポポ

チョウの好きな陽だまり

徳川園では、2019年の定例観察日に15種のチョウを確認しました。他の年の確認2種、南側花壇など隣接地での確認4種を含めると**累計21種**です。

チョウの出現は5月と9-10月が二つのピークで、梅雨時や夏場には減少する傾向があります。

5月は、アゲハ類（蜜源：ツツジ、シャリンバイ、センダンなど）とモンシロチョウ（蜜源：タンポポ、カタバミなど）が主体です。

アゲハ類は比較的各所に分散して見られますが、モンシロチョウは花菖蒲園が中心です。

秋には、ヤマトシジミ（蜜源：カタバミ、ハギなど）、ウラナミシジミ（蜜源：ハギなど）、キタキチョウ（蜜源：ツワブキなど）が、ハギやツワブキの周囲で見られます。

またウラギンシジミ（蜜源：腐果や獣糞）も、よく茂った木立の上を飛び回ります。

徳川園 2019			越冬	合計	季節別											地区別															
					3月	4			5		6	7		8		9		10		11		池の西岸	ポタン園	池の北岸	花菖蒲園	溪流下流	山上の広場	中瀧り周辺	滝口		
種数(累計21種)	個体数	13	20	27	11	25	22	13	28	10	24	14	28	13	27	9	23	14℃	18	15	23									26	曇
				15 ☆2+4	2	4	5	6	6	6	4	2	4	3	6	6	6	3	4	4	9	8	6	10	1	7	10	4			
				218	5	8	14	18	21	10	8	7	10	9	18	28	24	19	9	10	61	32	17	37	1	25	34	11			
アゲハ チョウ 科	アオスジアゲハ	サナギ	34	☆		6	4	2	☆	1	2	4	6	3	3	2	1			6	1	4	6		5	8	4				
	ナミアゲハ		37		3	4	5	5	5	☆	3	4		2	1	2	3			11	4	6	8		3	2	3				
	クロアゲハ		1				1																			1					
	ナガサキアゲハ		☆			☆																				☆					
	モンキアゲハ		4				2		2															1	1		2				
タテハ チョウ 科	テングチョウ	成虫	2	☆		1		☆	1																2	☆					
	ルリタテハ		1										1												1						
	ヒメアカタテハ	幼虫	+															+								1					
	ツマグロヒョウモン		6			☆	1		☆	1	1	☆		+	1	+	2	☆	☆	☆	1	5	☆			☆					
	コムラサキ		+																												
アサギマダラ		☆																													
ンロ チョウ 科	キタキチョウ	成虫	13		☆		1								1	1	1	4	5	4	1	1	1		2	4					
	モンシロチョウ	サナギ	13				1	1	10	+	1									1	1	1	6		1	3					
シジミ チョウ 科	ウラナミシジミ	成虫	10												1	7	2			10											
	ウラギンシジミ		23									1	☆	1	3	8	8	1	1	1	3	2	3		3	9	2				
	ムラサキシジミ		2				☆	☆												1	1				☆	1					
	ベニシジミ	幼虫	3		2	1															1		1			☆	1				
	ヤマトシジミ		67			2	5	2	☆	2	1	3	☆	5	9	12	10	10	3	3	26	16	3	9		9	4				
クロマダラソテツシジミ		+											+																		
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ	幼虫	2				1							1												1					
	チャバネセセリ		+																								1				

▶アゲハ類

ツツジ、シャリンバイ、センダンなどを蜜源として4月末～5月にピークを迎えます。その後、蜜源となるオニユリ（6月末～8月）、カクレミノ（7～8月）が開花するものの量的には多くありません。このため、次第に影が薄くなります。

▶モンシロチョウ

花菖蒲園（花菖蒲の根元や水路脇）に自生するタンポポやカタバミを蜜源に、5月にピークを迎えます。その後は蜜源が乏しくなるため姿を消します（タンポポ、カタバミなどは除草の対象）。

▶秋のチョウ

茶室（池西岸）周りのハギがウラナミシジミを呼び、植込みの根元などでしぶとく生き延びたカタバミがヤマトシジミを支えます。晩秋に咲くツワブキは、越冬を準備するキタキチョウの貴重な蜜源です。

▶蜜源リレーの課題

①不足しがちな梅雨～夏場の蜜源補強、②自生の蜜源（カタバミ、タンポポなど）の許容・活用、③上記以外のチョウも増やすため食草・蜜源の厚みを増す…などが、今後の課題です。

数字：定例観察日の確認個体数。

☆ 他の年の同様の時期に確認実績あり。

+ 隣接地（広義の徳川園内）で確認実績あり